



コウノトリ、関 希美

# わいるとらいぶ

## Wildlife

No.25

2011年12月17日

NPO法人 宮崎野生動物研究会

Miyazaki Wildlife Research Group

## 第22回 日本ウミガメ会議 in 沖永良部

今回のウミガメ会議は、11/18~20の3日間、鹿児島と沖縄の間、奄美群島の南西部に位置する沖永良部島で行われました。離島ということもあってか例年より参加者は少なく、宮崎からの参加者も2名でしたが、とても盛り上がり充実した会議となりました。

沖永良部に着いて最初に思ったことは「風が…暖かい!!」。半袖で十分でした。沖永良部の周辺は通年アオウミガメがいるらしく、私も観光ツアー中に、呼吸のため水面に顔を出した2頭と出会うことができました。この時期でも野生のウミガメが見られるとは思っていませんでしたので嬉しかったです。



私にとって3回目となったウミガメ会議ですが、9月に行った学生カメ会議での多くの仲間たちと再会することもでき、終始楽しく過ご

すことができました。特に懇親会後の学生飲み会は50名以上の学生が大集合し、ものすごい盛り上がりとなりました。とにかく学生のノリが凄く、いくつか学会を経験してきましたが他ではなかなか見られない光景ではないかと思います。



また、今回初めて口頭発表をさせていただきました。緊張で思ったようにできなくて少し残念でした。また来年発表できる機会があればチャレンジしてみようと思います。

次回の開催地はまだ決定していませんが、また参加したいと思える今回の沖永良部大会となりました。そのためにも今後も出来る限りカメ活動頑張りたいと思います。次回は宮崎から参加しやすい場所だといいなあ…

山本 達哉

## カモシカ調査に参加して

平成23年度カモシカ特別調査が去る9月に開始され、月1回のペースで実施されています。今年度の調査範囲は西米良村～都農町より南の県央地域であり、これまでの主な調査地は9月が綾町、国富町及び小林市、10月は都農町及び川南町、また、11月は西都市及び西米良村でした。調査は1回あたり3～4日連続で実施され、20名程度の調査隊員が2～3班に分かれて行われます。

私自身、カモシカ調査は初めてで、9月と10月の調査に参加させていただきました。野生研入会当初から竹下会長や先輩方より幾度となく「伝説のカモシカ調査」のお話を伺って



9月調査で発見されたカモシカの新糞

きたこともあり、9月の調査時に発見されたカモシカの新糞を現地で見せていただいた時は、捜し求めていたものによやく出会えたという感動と興奮に満たされたひと時でした。崩壊地脇の林内で発見されたカモシカの糞はとても新しく、艶々と黒光りしていて、つい先ほどまでカモシカがここにいたという何よりの証です。長径1.5cm程の楕円型をした新糞300粒以上が20cm四角の範囲に塊を成しており、その下層からはボロ糞の塊も確認されました。状況記録、糞の採集後に調査が再開されましたが、その後も林内では寝床や食痕、多数の角こすり痕が確認されるなど、当該調査区域でのカモシカ生息の可能性が大きいことを実感しつつ調査が進められました。

今後の調査でもカモシカの生息確認に繋がるフィールドサインがより多く発見されることを期待しています。また、私自身も可能な限り調査に参加して、カモシカの生息状況に係るデータの蓄積に寄与できるよう頑張りたいと思います。

長友 宏子



### 動物しつもん箱



【質問】ハリセンボンって名前の通り「針」が「千本」もあるの？ (日南市 Sさん)

【答え】 実際は350～400本と1000本の半分もありません。この針はウロコが長く強いとげに進化したもので正式には「棘(きょく)」と言います。皮膚は厚く、身の危険を感じると胃の中の特殊な部分に水や空気を吸い込んで、体をボールのように膨らませて針を立て相手を威嚇します。また、ハリセンボンの英名を和訳すると「風船ヤマアラシ」となります。そのヤマアラシですが、針の数は3万本以上もある種類がいます。こちらは多すぎますね(笑)。

(山本 達哉)

【質問】イカやタコの墨ってどうして黒いの？

(宮崎市 Kさん)

【答え】イカやタコは普段体の色を周りの色に合わせて変化させて身を隠していますが、それでも敵に見つかったときの最終兵器として、体の中にある墨汁嚢でつくった墨を噴出して逃げます。この墨には人の髪の毛の色などをつくる「メラニン」という色素が主成分であり、そのため黒く見えるのです。またこの墨の中には私たちの栄養となるアミノ酸も含まれており、パスタや塩辛などの料理にも利用されていますね。

(山本 達哉)

## 危険なペットブーム

最近、東京のビルの谷間に1頭のサルが現れて大騒ぎになっているテレビを見ました。どこから出てきたのか、まるで山から追い出されたように報道されていましたが、私がテレビの画面を見る限りそれはメスで、群れからはぐれたサルではなく誰かがペットとして飼っていたのが逃げ出したか、飼育が嫌になった人が逃げたのだらうと思いました。野次馬に追われ街路樹を伝わって逃げまわり、ついに姿を見せなくなってしまいました。恐ろしい人の社会にサルは受け入れてもらえず悲しんでいることでしょう。

ところが数日してまた、驚いたことに3メートルもあるニシキヘビが発見され消防団の人達や近所の人達が出て捜索し、やっと草むらに潜んでいたのを見つけてほっとしたということでした。それにまたまた毒蛇脱走の事件がありました。幸いなことに逃げ出したと思っていたら部屋の水槽の下に逃げ込んでいたのが発見されて、一件落着きました。室外に逃げ出していたとしたらと思うと恐ろしい話です。

しかし、それだけじゃありません。次は道路の側溝にワニのような、甲羅を持ちどう猛そうな顔つきのワニガメが見つかりました。何にでも飛びついて噛みつくし、人の指など食いちぎってしまう恐ろしいカメです。それにまた別のところでは、駐車場に大きなワニが出現しました。いったい何だろう。地球の温暖化で熱帯の動物たちが一挙にやってきたのか？いや、そんなはずはありません。それは隠れたペットブームが原因なのです。ペットと言えば、ついこの間までは犬や猫、それにうさぎ、金魚や10円玉に手足をつけたような可愛いカメといったのが主流だったのですが、しかし最近では都会では大きな声を出す動物を飼うことが出来ず、は虫類や魚類が隠れたペットブームになっているのだそうです。それに設備も良くなり飼育



も容易になると珍しい動物を求めてエスカレートし、今では猛毒の動物を飼うのがはやっているとか・・・全く迷惑千万な話です。ところがもっと恐ろしいことに。これらの人のなかにはペットが大きくなり飼育できなくなると、昔は動物園や保健所に引き取ってくれないかと相談に来る人も多かったのですが、今は困ったことにそのまま山や川、池に無造作に逃がしてしまうのです。それが最近の主なペット騒動の原因になっているのです。つまり放された動物たちがブルーギルやブラックバスなどのように、昔は日本にいなかったのですが、水槽で繁殖した稚魚が大きくなり飼育できなくなって川や池に放流したのが始まりで、それらがどんどん増えていったのです。これらの魚は肉食で鯉や鮒それに鮎といった日本古来の魚たちの稚魚を片端から食べ尽くし、絶滅に追いやっています。それが全国に広がり大きな問題になっています。こんな非常識な行動が生物界の生態系を乱しているのです。絶対にやめさせないと昔懐かしいふるさとの川にフナやコイ、メダカまでが消えてしまう日が近づいているのです。ペットを飼う人は節度ある動物の飼い方をまもっていただきたいものです。

竹下 完

## 松林にエビフライ



綾の吊り橋近くの林道を車で走っていると、道路に小さなエビフライが散乱していました。エビフライは道路に張り出した松の枝の下に、枯れた松葉やマツボックリの鱗片と混じって無造作に撒かれていました。誰かの弁当のおかずにしては数が多すぎますし、だいたいこんな小さなエビフライ弁当は売っていません。実はこれ、樹上性の哺乳類がマツボックリを堪能した痕跡、つまり食痕と呼ばれる物なのです。

動物の調査では、動物自身を捕獲・目撃する以外に、このような痕跡を見つけて生息域や生息数を推定することがよくあります。今年から我々が行っているカモシカ調査も、カモシカそのものではなく彼らのトイレ（糞）を探しています。

さて、綾のエビフライはいったい誰の作品だったのでしょうか。九州のニホンリスは絶滅していると考えられています。ニホンザルもエビフライを作りますが、群れで動く彼らの痕跡と考えるには少量で、形も少し違います。きっとニホンモモンガの仕業ではないかと考えていますが、その正体を突き止めるために自動撮影装置を設置して追跡調査を始めました。

越本 知大

## 宮崎の動物

### 『ニホンカモシカ』



宮崎市の動物園には、九州産のニホンカモシカがいます。6歳になる雌で体重は30kgです。現在、飼育下の九州産ニホンカモシカは、全国でも唯一この1頭しかいません。分類学的には偶蹄目ウシ科に属し、本州と四国にも生息しています。九州産のニホンカモシカは、黒くて小ぶりだといわれます。本州の動物園でニホンカモシカを見たとき、その大きさと体毛色の違いに驚きました。

本種の歩き方は特徴があり山岳地帯を歩くのに都合がいいのか、極端な爪先立ちです。硬いところを歩くと、コツコツと音がします。柔らかな砂地だと突き刺さった足跡が面白いように並びます。

幼獣は丸っこく、他の動物と同様にとっても可愛い姿をしています。大きな顔と目がその効果を一層引き立てています。体毛は、親より柔らかく黒い色をしています。微かに青味がかかったソフトな黒に私は感じます。成長するとかなり好戦的になり、飼育係に角を向けることもあります。ヤギや牛のように勢い良く突っかかって来るのではなく、そっと寄って来て角を突き立てます。ただし、角先の鋭さは他の比ではなく要注意です。

生息地南限の近くで、わき腹に深い傷を負った生後1週間位の幼獣が保護されたことがあります。その傷跡がクマタカやイヌワシといった猛禽類の爪痕に似ており厳しい生存競争があることを痛感させられました。

昨年はこの個体も嚴重な口蹄疫の防疫を行いました。まだ飼育が容易ではない九州産のニホンカモシカ、今後、保護と飼育を考える必要があるのかもしれない。

出口 智久

## リスザルの人工哺育



今年動物園では5頭の子ザルが生まれました。その中で、5月26日に出産した母ザルが2週間後に残念ながら死亡してしまいました。そこで子ザルを“ポテト”と名付け、人工哺育することになりました。ポテトはオスで、このときの体重が133g。1日中母ザルにしがみついている時期なので、代わりにペットボトルにお湯を入れてタオルで巻き、しがみつかせることにしました。ミルクは人間の新生児用のものにブドウ糖を混ぜて人肌に暖めて、注射筒を使って与えました。1度に飲む量が2～5CCと少なく、その日は12回、2～3時間おきに与えました。

ポテトの成長は順調で、心配していた下痢もせずに1度に飲むミルクの量も日増しに増えていきました。それに合わせて哺乳の回数を徐々に1日8回まで減らしました。人工哺育を始めて10日後には体重が157gになり、このくらいになると歯も生えて、離乳食としてつぶしたバナナを少しずつ食べるようになりました。1ヶ月もすると動きも活発になり、この頃から群れに戻す練習として、展示場の中で他のリスザルと接する時間を少しずつ増やしていきました。

現在ポテトは天気のいい日中、リスザル展示場で過ごしています。まだ馴染めきれずに飼育員の方に寄ってきてしまいますが、今後元気に群れの中で過ごせるように見守っていきたいと思います。

古根村 幸恵

## がん漬



大園 隆仁

宮崎の干潟は、元博物館の末吉先生に紹介して頂き、長らく調査を続けています。九州では、東岸で砂底、西岸で泥底が多く、有明海に干潟学習館があることを現博物館の山田先生から伺っていました。

先日、長崎で学会があり、その学習館に寄ってみました。着くと、目の前には、広大な泥底が沖まで続いていました。少し位は歩けるだろうと思い、挑戦で足を入れると、一歩目で埋まり、即退散でした。岸には、学習館と物産館が建ち、迷わず、美味しい物があるはずの物産館に入りました。すると、シオマネキを漬して発酵させた「がん漬」が売っていました。砕いたカニは、見た目に激しかったのですが、珍しいので、買うことにしました。持ち帰って、友人らに一先ず食べて貰い、様子を探って食べると、唐辛子と鰯（はさみ）が強烈でした。酒の肴になる同じ塩辛でも、宮崎海洋高校の製品でマグロ油漬缶詰に人気を匹敵するイカの塩辛とは感触が違いました。おそらく、有明海で独自の食文化が守られてきたのでしょう。

珍しい物を食べると、健全な環境のもと、生き物から命を貰い、人が生きていることを実感できます。宮崎にも、独自の環境があるため、価値ある資源を確認できるかもしれません。



次は、尾前明洋さんをお願いします。

## 野生研のあしあと

- 7/30 23年度カモシカ調査予備調査 (岩本・児玉・岩切)  
7/30 子ガメの孵化観察会 集合：石崎浜海岸  
8/2 宮崎県委託 23年度野生動植物調査打ち合わせ (県庁会議室)  
8/6 子ガメの孵化観察会 集合：石崎浜海岸  
8/10 23年度アカウミガメ調査終了  
8/11 研修所草刈り (竹下・児玉・長谷)  
8/16 野生研 8 月月例会  
8/19 東京FM取材 放送  
8/20 子ガメの観察会 100名参加  
8/20 宮崎市に 23 年度ウミガメ調査中間報告提出  
8/29 23 年度カモシカ調査実施について打ち合わせ (岩本・竹下・児玉・中村・福島・岩切)  
9/1 ウミガメ産卵最終上陸記録  
9/8 わいるどらいふ 24 号印刷  
9/13 23 年度ウミガメ調査報告会と反省会 32 名参加 (宮崎市内花月亭にて)  
9/20 野生研 9 月月例会  
9/22 カモシカ調査結団式 (綾てるはの森の宿)  
9/23~25 第1回カモシカ調査 (綾町・国富町・小林市・西都市)  
10/8~10 第2回カモシカ調査 (都農町・木城町・西都市)  
10/10 宮崎に上陸したウミガメが屋久島で再捕獲  
10/18 野生研 10 月月例会  
11/3~6 第3回カモシカ調査 (西都市・西米良村)  
11/6 宮崎県自然保護推進員大会  
講演：事例発表「ウミガメの保護活動」  
関希美 (フェニックス自然動物園)  
11/13 日本環境動物昆虫学会(ホテルメリージュ)  
特別講演：「サル学発祥後の地幸島と宮崎のさる」 竹下完  
シンポジウム：「ウミガメの来る街」 岩切康二  
11/18~20 日本ウミガメ協議会沖永良部会議開催  
竹下完、山本達哉が参加 研究発表：山本達哉

## 動物記録

- 8/14 高鍋海水浴場で子ガメを送る会。約 500 人が参加。【宮崎日日新聞】  
9/5 椎葉に野生アライグマ。県内初確認。農業、人へ被害の恐れ。【宮崎日日新聞】  
9/8 13 年前に名古屋港水族館で放流したアカウミガメが、長崎県対馬市で保護。【朝日新聞】  
9/23 御池野鳥の森のヤイロチョウ、繁殖見られず“渡り”危機。マナー違反の撮影が原因か？【宮崎日日新聞】  
9/24 本県で 8 年ぶり。ニホンカモシカの生態調査始まる。【宮崎日日新聞】  
9/30 国内最大級の照葉樹林を生かした町づくりを進めてきた綾町がユネスコ・エコパークに推薦。【宮崎日日新聞】  
10/9 鹿児島県出水市に今季初のマナヅル飛来。【毎日新聞】  
10/20 祖母山系にクマが出没？5メートル先立ち上がった!!登山者が通報。【宮崎日日新聞】  
10/25 一ツ瀬川河口にクロツラヘラサギ飛来。【宮崎日日新聞】  
10/28 日向市細島港に外来毒グモであるハイイロゴケグモが出現。【宮崎日日新聞】  
11/13 秋に光るホタル、オキナワスジホタル。宮崎市内で発生。【朝日新聞】  
11/15 島根県での鳥インフルエンザウイルス感染を受け、宮崎県で高病原性鳥インフルエンザ対策本部会議を開催。【宮崎日日新聞】

## 新会員のご紹介 (敬称略)

正会員：藤本 彩乃  
賛助会員：遠藤 晃



宮崎野生動物研究会通信「わいるどらいふ」 No.25 2011年12月17日発行  
特定非営利活動法人

宮崎野生動物研究会 (Miyazaki Wildlife Research Group)  
代表 竹下 完

880-0825 宮崎市東大宮 3 丁目 9-11

Tel 0985-25-7585 Fax 0985-25-7585

Email: kan-take@miyazaki-catv.ne.jp http://www.m-yaseiken.org

「わいるどらいふ」の無断引用、転載、複製を禁止します。



アシナガタケの近縁種